

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		筑波技術大学			設置者名		国立大学法人筑波技術大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
産業技術 学部	産業情報学科	35人	中一種免(数学)	平成23年度	33人	2人	1人	1人	
			高一種免(数学)	平成23年度			1人		
			高一種免(情報)	平成23年度			1人		
			高一種免(工業)	平成23年度			1人		
	総合デザイン学科	15人	高一種免(工芸)	平成23年度	11人	0人	0人	0人	
保健科学 部	保健学科 鍼灸 学専攻	20人	中一種免(保健)	平成25年度	-	-	-	-	
			高一種免(保健)	平成25年度	-	-	-	-	
	保健学科 理学 療法学専攻	10人	中一種免(保健)	平成25年度	-	-	-	-	
			高一種免(保健)	平成25年度	-	-	-	-	
	情報システム学科	10人	高一種免(情報)	平成23年度	11人	1人	1人	0人	
入学定員合計		90人	合計		55人	3人	5人	1人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

大学名		筑波技術大学			設置者名		国立大学法人筑波技術大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成26年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
技術科学 研究科	産業技術学専攻	4人	高専免(情報)	平成23年度	4人	1人	1人	1人	
			高専免(工業)	平成23年度			0人		
	保健科学専攻	3人	高専免(情報)	平成23年度	2人	0人	0人	0人	
入学定員合計		7人	合計		6人	1人	1人	1人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成27年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

教職課程実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成27年8月25日（火）

実地視察大学：筑波技術大学

実地視察委員：酒井朗委員，伏木久始委員

【全般的事項】

- 教員養成に関する教育課程及び教員組織等については，おおむね良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

- 聴覚・視覚障害者のために設立された大学としての教員養成に対する理念・構想は示されているため，それを具現化するための教職課程に対する全学的な組織，教育課程及び教員組織をより一層充実させるように努めていただきたい。

2. 教育課程（教職に関する科目及び教科に関する科目），履修方法及びシラバスの状況

- 各教科の指導法に関する科目のうち，一部科目については，指導法としての内容がやや不足しているように見受けられたことから，授業内容の充実に努めていただきたい。
- 「教職に関する科目」のうち，一部科目について，テキスト・参考資料の不足が確認されたため，シラバスへ追記し，授業で使用すること。
- 大学としての教育目標や聴覚・視覚障害のある学生のニーズを，具体的な授業科目やカリキュラムの編成等にさらに反映させるように御検討いただきたい。

3. 教育実習の取組状況

- 教育実習は，母校ではない聴覚・視覚障害の特別支援学校に大半の学生を派遣していることが確認された。今後も，大学による教育実習指導体制や評価の客観性の観点から，遠隔地の学校や学生の母校における実習ではなく，可能な限り大学が所在する近隣の学校において実習校を確保することが望ましい。今後，地元教育委員会や学校との連携を進め，近隣の学校における実習先の確保に努めていただきたい。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

- 少人数という特性を活かして担任制をとっており，学生ごとに指定された教職科目担当専任教員が丁寧に学生への教職指導を行っていることが確認された。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

- 地域の小学校における「総合的な学習の時間」の講師としての派遣依頼を受け、教職課程履修学生が中心となって担当していることや、特別支援学校への教育支援活動（スポーツ交流、手話指導等）にも教職課程履修学生がボランティアとして参加していることが確認された。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

- 聴覚、視覚障害に応じた施設・設備が整備されていることが確認された。
- 視覚障害のある学生のための資料（音声資料等）について、一層の充実に努めていきたい。

7. その他特記事項

- 視覚障害のある学生に対して、音声変換をした教材や教育方法が工夫されている一方、聴覚障害を持つ学生に対して、ICTをフル活用した協働学習のツールや教育方法を今後さらに工夫されていくことを期待する。
- 教職課程を設置する前から免許状更新講習を実施してきているなどの積極的な取組みが見られ、今後も聴覚・視覚障害の特別支援学校の現職教員の資質能力の向上に寄与されることを期待する。